

和歌山縣報

第千百一號

明治四十四年八月二十七日

○告 示

○和歌山縣告示第二百八十七號

左記定置漁業免許期間ノ更新ヲ免許シ舊免許漁業原簿ニ登錄ス

明治四十四年八月二十七日

和歌山縣知事 川上親晴

明治四十二年八月十六日免許第七六九號

東牟婁郡九重村大字九重

一 魴類漁業粘網掛

代表者 倉野松吉

免許更新期間 明治四十四年八月十六日ヨリ五ケ年

○和歌山縣告示第二百八十八號

北海道國有未開地ニシテ賣拂又ハ貸付并ニ特定地ヲ設定シタル箇所左記ノ通ナル旨北海道廳長官ヨリ通知アリタリ

明治四十四年八月廿七日

和歌山縣知事 川上親晴

○北海道廳告示第五百四十七號

左記ノ箇所ハ官林ヲ解除シ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ編入ス編入前賣拂ノ出願ヲ爲シタル者ハ同法ニ依リ更ニ出願スヘシ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ス

明治四十四年七月二十日

北海道廳長官 石原 健 三

賣拂又ハ貸付地

河西支廳管内(區畫外)

國	郡	町村	大字	地	名	概算地積
十勝	上川	人舞		シントク區畫地續甲		六六〇町六二五 ^キ
同	同	同		同 乙		一一三、四三三
同	河西	幸震		サツナイ		一、三三五、三三五
	増毛支廳管内					
國	郡	町村	大字	地	名	概算地積
天塩	天塩	天塩		下サロベツ區畫地續		一六、三三〇

○北海道廳告示第五百四十八號

左記ノ箇所ハ官林ヲ解除シ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ編入ス編入前賣拂ノ出願ヲ爲シタル者ハ同法ニ依リ更ニ出願スヘシ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ス

明治四十四年七月二十日

北海道廳長官 石原 健 三

賣拂又ハ貸付地

○ 釧路支廳管内(區畫外)

國 郡 町村 大字

釧路 白糠 庶路

同 同 白糠

同 同 尺呂

同 同 川上 弟子屈

同 同 阿寒 舌辛

同 同 同 他別

地 名

庶路茶路川間山手

上茶路區畫地沿

ムリチヤンベツ間山手

弟子屈

ホロロ區畫地沿

シロコマベツ

概算地積

四、四九、二〇五

七五、三〇〇

二、三九、一六〇

一、五二、〇〇〇

三、七〇、〇〇〇

五七、三三三

○ 北海道廳告示第五百六十四號

北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依リ賣拂貸付スヘキ土地左ノ如シ但シ圖面ハ

北海道廳及所轄支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十六日

賣拂又ハ貸付地

北海道廳長官 石原健三

上川支廳管内(區畫地)

國 郡 町村 大字

石狩 空知 上富良野

同 同 上富良野 下富良野

區 畫 地 名

フラヌ(其一)

同 (其二)

概算地積

四二五、一九〇

三二、〇一三

○ 北海道廳告示第五百六十五號

左記ノ箇所ハ官林ヲ解除シ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ編入ス編入前賣拂ノ出願ヲ爲シタル者ハ同法ニ依リ更ニ出願スヘシ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十六日

北海道廳長官 石原 健 三

賣拂又ハ貸付地

河西支廳管内(區畫外)

國	郡	町村	大字	地	名	概算地積
十勝	河東	音更	音更	ヌアバオマナイ		三〇、一四七
同	同	同	同	上音更區畫地續		三、四二八、三三〇
同	同	同	音更東士狩	ウリマク區畫地續		二、八七六、二七〇
同	同	同	東士狩	然別川右岸山手		三、〇八二、八九七

○北海道廳告示第五百六十六號

左記ノ箇所ハ官林ヲ解除シ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ編入ス編入前賣拂ノ出願ヲ爲シタル者ハ同法ニ依リ更ニ出願スヘシ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十六日

北海道廳長官 石原 健 三

賣拂又ハ貸付地

河西支廳管内(區畫外)

國	郡	町村	大字	地	名	概算地積

同 同 同

同 已

五、〇〇〇

○北海道廳告示第五百六十七號

明治四十二年測設區畫地ノ内地北海道國有未開地處分法第二條第四條第五條ニ依リ賣拂貸付スヘ

キ土地及同法第三條ニ依リ設定シタル特定地左ノ如シ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十六日

北海道廳長官 石原健三

賣拂又ハ貸付地

網走支廳管内(區畫地)

國 郡 町村 大字 區 畫 地 名

北見 網走 美幌

上木倉 概算地積 三五、七三〇九

特定地

網走支廳管内(區畫地)

國 郡 町村 大字 區 畫 地 名

北見 網走 釧木倉

ケミチヤブ 概算地積 四〇六、四九一六

○北海道廳告示第五百七十一號

左記ノ箇所ハ官林ヲ解除シ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ

編入ス編入前賣拂ノ出願ヲ爲シタル者ハ同法ニ依リ更ニ出願スヘシ但シ圖面ハ北海道廳及所轄

支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十七日

北海道廳長官 石原健三

賣拂又ハ貸付地

浦河支廳管内(區畫外)

國	郡	町村	大字	地	名	概算地積
日高	様似	様似	冬島	ペンケトチキサブ		一、三六一、二五〇〇
同	同	同	同	パンケトチキサブ		二六四、六八二
同	新冠	高江		オラリ		二六、〇四五
同	沙流	門別	厚別	エモドル		七三、〇四〇五
同	同	同	同	厚別川支	ホロカアンナイノ上	九、八五〇〇
同	同	幌去		沙流川支		九八、一六二〇
同	同	貫氣別		オウコツナイシユマラメ	間	四、〇〇〇〇
同	同	同		ペンケナイ		四、〇〇〇〇
同	同	同		貫氣別		四三、七五〇〇

○北海道廳告示第五百七十二號

北海道國有未開地處分法第二條第四條第五條ニ依リ賣拂貸付スヘキ土地及同法第三條ニ依リ設定シタル特定地左ノ如シ但シ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ク

明治四十四年七月二十七日

賣拂又ハ貸付地

空知支廳管内(區畫外)

國	郡	町村	大字	地	名	概算地積	樹木有無
石狩	雨龍	深川		秩父別		九二、一二三	無木
同	同	北龍		オサルンナイ甲		一六、〇一〇	雜樹疎林

北海道廳長官 石原健三

上川支廳管内(市街特定地)

國郡 町村 大字

天塩 上川 士別

特定地

函館支廳管内(區畫地)

國郡 町村 大字

膽振 山越 長万部

同 同 同

同 同 同

十勝 中川 本別

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

市街豫定地名

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

士別

戶數

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

五、

概算地積

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

〇、五〇〇、

概算地積

五三、七六三

五九、八〇九

一三、〇六六

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

八、四六〇

樹木有無

雜樹疎林

同

針濶混合林

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

○北海道廳告示第五百七十三號

明治四十三年二月北海道廳告示第二百二十二號ヲ以テ特定地ニ變更シタル膽振國山越郡長万部村字國縫川間ヲ字國縫ト改メ地積三百九十八町二段二十五歩ノ内二百八十六町六段三畝二歩ヲ北海道國有未開地處分法第二條第四條及第五條ニ依ル賣拂貸付地ニ變更ス
明治四十四年七月二十七日
北海道廳長官 石原健三

○和歌山縣告示第二百八十九號

左記ノ者小學校教員無試驗檢定ニ依リ各頭書ノ教員免許狀ヲ授與セリ
明治四十四年八月二十七日
和歌山縣知事 川上親晴

記

奈良縣平民

小學校本科正教員

池田 幾松

明治三十二年十一月生

尋常小學校本科正教員

岩崎 萬次郎

明治五年二月生

和歌山縣平民

尋常小學校本科正教員

榎本 九か

明治二十六年三月生

尋常小學校准教員

湯橋 栗枝

明治二十六年九月生

以上

○和歌山縣告示第二百九十號

兵庫縣加東郡上福田村ニ於テ本月八日和種牝牛一頭炭疽ニ罹リ即日斃死セシ旨通知アリタリ

明治四十四年八月二十七日

和歌山縣知事

川上 親晴

○和歌山縣告示第二百九十一號

兵庫縣美方郡熊次村ニ於テ本月十四日和種牝牛一頭炭疽ニ罹リ翌日斃死セシ旨通知アリタリ

明治四十四年八月二十七日

和歌山縣知事

川上 親晴

○和歌山縣告示第二百九十二號

日高郡由良村大字里百五十七番地

開業産婆

湯川 ステ

右ノ者産婆規則第十條ニ依リ明治四十四年七月二十七日ヨリ向フ一ケ年間其業務ヲ停止セリ

明治四十四年八月二十七日

和歌山縣知事 川上 親晴

○和歌山縣告示第二百九十三號

有田郡產牛組合定期家畜市場設置ニ付家畜市場法第七條ノ區域及期間左ノ通指定ス

明治四十四年八月二十七日

和歌山縣知事 川上 親晴

一區域 有田郡一圓但シ八幡村、安齋村ヲ除ク

一期間 開催日ノ前後各三日間

○和歌山縣告示第二百九十四號

本縣土木工事仕様別冊ノ通相定ム

明治四十四年八月廿七日

和歌山縣知事 川上 親晴

(別冊)

和歌山縣土木工事仕様書

一、縣費ヲ以テ支辨スル土木工事ハ本仕様書ニ依リ施行スヘシ但シ特ニ示シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、請負人ハ當廳ヨリ交付ノ材料認定簿ヲ常ニ工場ニ備置キ検査済ノ物品員數ヲ之ニ記載シ監督員ノ認印ヲ受ケ工事竣工検査完了ノ上返納スヘシ

三、工所用材料ノ品質及寸法ノ検査ハ係員ニ於テ至當ト認ムル方法ニ依リ検査ヲ行フモノトス其ノ方法ニ付請負人ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

四、工事用材料ハ現場工事ニ着手前材料全部ノ五分ノ一以上(施行上最初ニ必用ナル種類)ヲ取揃ヘ置クヘシ殘部五分ノ四ニ對スル材料ハ指示ノ期間毎ニ納付スヘキモノトス

五、土取場、土捨場等ニ關スル諸費工事用諸器械、遺形、足場、監督員出張小屋、材料集置場、工業船、土砂船、點燈、爲替道、仮水路設置、水替、材料檢査用諸費及施工上測量ヲ要スルトキノ杭木人夫其ノ他雜費ハ凡テ請負人ノ負担トス

六、土砂又ハ岩石等ハ工作物又ハ營造物ヘ危害ヲ及ホシ若ハ公害ノ虞アル場所ヨリ採取スヘカラス

七、土砂又ハ岩石等ハ河川其ノ他公害ノ虞アル場所ニ捨ツヘカラス

八、工事完成ノ上ハ五日以内ニ跡片付掃除ヲ爲スヘシ

九、設計書及圖面ニ記載ノ寸法ハ凡テ仕上正寸トス

一〇、計畫ノ中心、勾配、幅員等ハ凡テ圖面ニ表示ノ通施行スヘシ

一一、傾斜ノ地ニ盛土ヲ爲サムトスルトキハ現場監督員ノ指示ニ從ヒ斜面ニ階段ヲ附シ新舊土砂ヲ密着セシムヘシ

一二、盛土傾斜面ハ厚六寸以上真土ヲ用ヒ(二分ノ一以内ノ砂ヲ混スルモ支ナレ)法高壹尺毎ニ長壹尺幅四寸厚壹寸以

上ノ雜草ヲ混セサル筋芝ヲ法面直角ニ植込ミ充分搗固メ羽縮ニテ土羽面ヲ堅ク叩キ固メ一直線

ニ法勾配通り良ク狂ナキヲ期スヘシ而シテ以上ノ工費ハ凡テ盛土單價ニ含有ス尤モ土羽工ハ別

ニ工費ノ支拂ヲ爲スコトアルヘシ但シ振ヒ芝、乾芝又ハ萌芽ノ見込ナキモノヲ用ウルヲ許サス

又筋芝ヲ付スルハ盛土後可成一兩度ノ降雨ヲ經テ植付クヘシ

一三、盛土ノ内部ハ設計書ニ指定スル場合ノ外、砂或ハ砂利等ヲ混スルハ適宜タルヘシト雖草木

其他ノ雜物ヲ混淆スヘカラス

一四、盛土ハ壹尺乃至貳尺毎ニ持込ニ人夫ヲシテ踏固メシムヘシ撤出シノ盛土ハ層一層左右兩端ニ高ク凹形ニ撤出シ土質ニ依リ高サノ十分ノ一乃至二十分ノ一ニ對スル餘盛ヲ爲スヘシ但シ盛立後沈下ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

一五、橋臺土留石垣、暗渠土管ノ後部又ハ上部ハ偏壓ナキ様特ニ入念築立ヲ爲スヘシ

一六、切取ノ斜面ハ指定シタル勾配ニ切均シ凹凸ナカラシムヘシ實況ニ應シ既定ノ勾配ニテ保持シ難シト認メタル箇所ハ緩勾配ニ切取ナシ若シ之ニ反シ豫想外堅固ナル地質ニシテ保持上支障ナシト認メタル部分ハ既定ノ勾配迄切取ラシメサルコトアルヘシ尤モ之カ爲メ豫定數量並單價ノ増減ヲ爲ササルモノトス但シ切取敷及上部ノ排水路又ハ土縁ノ築設ハ切取單價ニ含有ス

一七、切取又ハ盛土法面ニ於ケル張芝ハ壹枚ノ大サ五十平方寸厚壹寸以上ニシテ雜草ヲ混セサルモノトス張芝目串ハ長サ六寸幅四分以上ノモノニシテ平壹坪ニ百本以上トス

一八、挽材ハ可成乾燥シタルモノニシテ死節、生節ノ大ニシテ使用ノ妨トナルモノ又ハ立枯レ水腐リ捻レ歪ミ等保存耐力上缺點アルモノハ使用スヘカラス但シ高欄ノ木材ハ疵疵ハ勿論生節タリトモ可成少ナキモノヲ使用スヘシ敷板其ノ他ノ正角材ト雖一面四寸以上ノモノニアリテハ其ノ斷面積百分ノ一以內長三尺未滿ノ丸身ニシテ表ニ顯レサルモノニ限リ監督員ニ於テ認定セシモノハ之ヲ使用セシムルコトアルヘシ

一九、丸太ノ類ト雖彎曲ナキヲ要ス但シ其ノ曲ノ心墨ヲ外レスシテ施行上差支ナシト認メタルモノハ使用ヲ許スコトアルヘシ

二〇、押角材ハ材片ノ一隅ニ於テ幅、厚二邊ノ和ノ六分ノ一以上ノ丸形ヲ帶ヒタルモノハ採用セ

ス

二一、丸太材ハ基礎用材ヲ除キ可成乾燥シ凡テ外皮ヲ剝キタルモノトシ末口ノ寸法ハ何レモ皮剝
ユシテ断面節切リトナシタルモノハ其ノ節ヲ離レタル部分ニ於テ長ニ直角ナル平面ニ於テ計ル
ヘキモノトス但シ断面橢圓形ナルモノハ長短二徑ヲ平均シタル寸法ヲ以テ測定ス

二二、敷板ハ最小幅四寸以上トシ如何ナル場合ト雖兩端幅ノ差一倍半以上ノモノヲ用ウヘカラス
且張合セノ際ハ木心ヲ上部ニ向テ接際ハ二回以上鋸摺ニシテ「シヤツキ」ノ類ヲ以テ隙間ナキ様
締合セ若シ桁木ノ丸太材ニシテ面凹凸アルモノハ均シ木ヲ用ウヘシ但シ均シ木代ハ桁木價格ニ
含有ス

二三、橋梁其ノ他木材ノ角物仕立ハ高欄廻リ及「トラス」用材ヲ上鉤削リトシ其ノ他ヲ表裏トモ並
鉤削トス

二四、出納竝納孔ハ(二寸乃至四寸角トシ長サハ厚ノ約二分ノ長)正確ニ仕上ケ組合セハ胴付ニ隙間ナキ様仕上クヘシ

二五、金物ハ鍛疵、鑄疵、地鐵不良又ハ錆落シセサルモノヲ用ウヘカラス而シテ錆止メハ可成現場
ニ於テ材料ノ検査ヲ受ケタル上施行スヘシ

二六、「ボールト」其ノ他金物ハ別ニ定ムル寸法重量ニ仕立タルモノトシ「ボールト」ハ締付ニ當リ
長短ヲ生シタル際ハ長キハ餘ヲ切り増シ短キハ適當品ニ取替ウヘシ但シ之カ爲メ價格ノ増減ヲ
爲ササルモノトス

二七、木材ニ防腐劑ヲ塗抹スル場合ハ三度塗トシ各片ノ接合部ハ接際内部ニ充分塗料ヲ施ス様注
意施行スヘシ「カルボニウムアトラス」ヲ塗抹スルニハ鍋類(陶製又ハ鐵製)ニ入レ軟火ニテ殆
ント手ヲ觸ルヘカラサル程度ニ温メ木理ニ浸潤セシムヘシ木材濕氣ヲ帯ヒシ際ハ沸騰セシメ用

ウヘシ横截面、鑿孔其ノ他見ヘ際レトナル部分ニハ必ス組立前ニ刷毛ヲ以テ充分浸込マシムヘシ

二八、橋梁ノ名稱及河川名竝架換年月ハ男柱ニ彫刻シ文字面ハ鑄ヲ付シ「ペンキ」ヲ塗ルヘシ但シ橋梁名稱ハ兩詰共右側男柱ノ中央ニ河川名ハ片詰左側男柱ニ記入シ架橋年月ハ他ノ片詰左側男柱ノ中央ニ記入シ男柱ヲキ橋梁ニ於テハ厚六分長二尺幅七寸ノ杉板ノ上部ニ河川名中部ニ橋梁名下部ニ架橋ノ年月ヲ墨書シ見ヘ易キ部分ノ耳桁木中央ニ打付クヘシ但シ之ニ要スル費用ハ仕立費中ニ含有ス

二九、橋梁男柱頭部ハ高サ一邊ノ十分ノ一ナル四方山形ノ鑄ヲ付シ高欄笠木ハ幅ノ十分ノ一二對スル山形ノ鑄ヲ付シ繼手ハ指示ノ通りトシ仕立上ケハ橋面反リト竝行シ一直線タルヘシ

三〇、極木ノ仕立ハ笠木ヘ二寸以上納入トシテ堅木ニテ栓留トス其ノ足元ハ厚二寸以上トシ耳桁ハ釘留ト爲スヘシ

三一、橋柱ハ元口ヲ根入トシ真直ニ打込ムモノトス

三二、基礎土層木又ハ梓類ノ枘ノ幅、厚ハ其ノ材片ノ末ハ徑ニ約相當スル長サヲ幅トシ厚ハ幅ノ約三分ノ一トシ枘孔等荒鑿仕上トシ普通ノ場合ハ木口ヨリ其ノ徑ニ相當スル距離ヲ保タシメ枘孔ヲ設ケ枘ト枘孔トハ密着セシメ堅木込栓留ト爲スヘシ

三三、基礎用材ハ生松又ハ檜丸太ニシテ素性正シク心墨ノ外レサルモノニシテ末口四寸未満ノ枘木ハ相當重量アル蛸木其ノ他適當ナル杭打器械ヲ使用シテ打込チナシ末口四寸以上ノ枘木ハ總テ指定ノ重量ヲ有スル眞矢又ハ二本子其ノ他適當ナル器械(但シ末口八寸未満ハ重量三十貫以下全八寸以下貫以下ノモノ)ヲ使用シテ打込チナスヘシ若シ破碎ノ虞アルモノハ請負人自費ヲ以テ鐵輪ヲ嵌メ

其ノ破碎ヲ防キ設計ノ通打込ムヘキモノトス又杭木尖シ長ハ末口徑ノ一倍半ヲ以テ通例トシ砂利質ノ箇所ニ打込ムヘキ杭ハ必ス其ノ尖端ヲ圓錐形トシ其ノ他ハ三角形若ハ方錐形ト爲スヘシ但シ地質ニ依リ設計ノ通打込ミ難クシテ最終沈下ノ程度ヲ以テ杭根入ヲ定ムトスルトキハ監督員ノ認定スル程度ニ依ル又打込方ニ着手セシ杭木ハ必ス即日打込ミ終ル可ク翌日ニ跨リ施行スルヲ許サス

三四、抱杭ノ類ハ基礎上部ニ疊積工ヲ施行セサル以前ニ於テ打込ヲ爲スヘシ但シ杭頭ハ土居木上端ヨリ五寸以下ニ達スル迄打込ムヘキモノトス

三五、捨石ハ割石野面石タルヲ間ハス一立方尺ノ重サ拾五貫以上ニシテ著シク扁平ナラス捨込後折損ノ憂ナキモノニシテ壹箇ノ最輕量目參拾貫以上ノモノニシテ貳千七百貫目ヲ以テ立壹坪トシ個數ニテ計量ス仮令ハ壹箇參拾貫ノ指定ナレハ九拾個ヲ以テ立壹坪トシ參拾貫ヨリ量目大ナルモノト雖參拾貫ト看做シ個數ヲ以テ計算ス尤モ其ノ量目三割以上増加シアルモノハ壹箇三分トシ以上三割ヲ増ス毎ニ三分ヲ増加スルモノトシテ計算スルカ如シ

三六、石垣ハ設計書ノ通裏詰石ヲ入ル、ニ充分餘地アル迄土砂ヲ堀取リ指定ノ基礎工ヲ施シ又ハ岩石堀取ヲ爲シ監督員ノ檢査ヲ受ケタル後積立ニ着手スヘシ根堀跡ハ埋戻シヲ必要トスル部分ニ對シ指定ノ通無償ニテ施行スヘシ

三七、割石垣ハ甲、乙ノ二種トシ疊法ハ布積、谷積ノ二法トス但シ設計書ニ特ニ記載スルモノ、外總テ谷積トス

三八、甲種割石垣ハ合端玄翁小叩摺合積ニシテ周邊總テ密接セシムルヲ要シ如何ナル場合ト雖表面一邊ノ二分ノ一以上ニ相當スル部分ハ其ノ合端ノ入り少クトモ石扣ノ十五分ノ一ヲ有セシメ

八ツ卷、四ツ目、崩レ、込石、サカ石、芋繼及四個以上ノ通目ヲ生セシメサル様築石ノ配置宜シキヲ得ルヲ要シ(築石ハ長サノ三分ノ一ヲ厚サノ最小トシ長ノ三分ノ二ヲ幅ノ適度トス厚幅同一ノモノニアリテハ長ノ二分ノ一ヲ標準トス)割栗石又ハ割肌石ヲ用ヒ丁寧ニ隙間ナク肌石、尻割ヲ入レ定着セシメ裏込石(裏込礫)ハ其ノ詰方緻密ニシテ亂雜ナラサルヘク徑二寸以上六寸以下ニシテ二個相擊テ破碎セサル材料ヲ以テ所定ノ厚サニ填充シ内部ノ土砂ハ裏込ニ混入スヘカラス但シ肌石、尻割、目潰砂利ノ代價ハ築石價格中ニ含有スルモノトス

三九、乙種割石垣ハ合端玄翁摺合積ニシテ如何ナル場合ト雖表面一邊ノ三分ノ一以上ニ相當スル部分ハ其ノ合端ノ入り少クトモ石扣ノ二十分ノ一ヲ有セシムルヲ要ス尤モ石質ニ依リ嗣付合端タルモ差支ナシト雖止ムヲ得ス合端ノ空隙ヲ生スル場合ハ可成小ナル三角形トシ必ス石裏ヨリ恰當ナル石ヲ填充シ決シテ外部ヨリ込石ヲナスヘカラス而シテ築石ノ配置並肌石、尻割、裏込石ノ入レ方ハ甲種割石積ト全一ノ仕様ニ依ルモノトス但シ片岩割石ニ限リ其ノ石質ノ硬軟ニ應ジ合端ノ入りハ甲乙二種トモ前ノ十分ノ五迄縮小シ又標準形狀ニ於テ幅ノ大キ石扣ヲ超過セサルモノハ使用スルコトヲ得

四〇、野面石ノ疊法ハ合端摺台ヲ要セス顯頭石(午房形)ヲ龜甲ニ組合ハセ壹個若ハ貳個ノ積石脫出スルモ拱持ノ作用ニ依リ他ノ部分ノ崩壞ヲ來タサ、ル様注意積立ヲ要ス其ノ他ノ事項ハ割石垣ニ準據スルモノトス

四一、石垣ノ築立ハ通例勾配ニ直角ト爲シ築石ノ後部ニテ下ルヲ要シ根石ハ基礎工ノ前段ヨリ外部ニ突出セシメヌ平等ニ据付ケ天石ハ合端ノ長キモノヲ要スルヲ以テ築石中ニテ最大、最良ノモノヲ撰用スヘシ

四二、石垣築造ハ遺方通り見通シ正シク築立テテ爲シ孕ミ出シ等ナカラシメ設計ノ勾配ニ符合セ

シムヘレ但シ勾配ハ舊形ニ接續ノ箇所ニ限り監督員ノ指示ニ從ヒ取合セ其ク接續セシムヘシ

四三、石材ハ石質軟弱、疊積後折損又ハ風化ノ虞(富田石ヲ除キ)アルモノ竝石取ノ粗雜ニ過キ甚

レキ錐形ノモノハ採用セス

四四、野面石及裏込石等ハ其ノ採集地ノ何レタルヲ問ハスト雖堅固ニシテ二個相擊チ破碎セサル

モノタルヲ要ス

四五、石垣築石ノ內在石ヲ利用スル場合ニ於テハ足シ石ト混淆使用セス各別ニ疊積スルヲ要ス

四六、混凝土ハ洗砂利、洗砂及「セメント」ノ配合ヨリ成立シ砂及砂利ハ多角ニシテ且ツ堅硬ナル

ヘタ砂ハ清淨ニシテ粘土其ノ他有機物ヲ除却シヤル徑四厘以下二厘以上ノモノタルヘタ面シテ

其ノ少量ヲ指頭ニ撮ミテ之ヲ揉ミ指頭ニ鋭ク粗糙ザラシクニ感スルモノタルヲ要ス又砂利ハ徑五分以

上一寸五分以下ノモノタルヘタ「セメント」ハ聊カモ濕氣凝結等ノ異狀ナク完全ナル粉末ノ状態

ニシテ「セメント」二十七匁ニ適量ノ水(七匁乃至九匁)ヲ加ヘ能ク混捏シテ糊狀体ト爲シテ之ヲ硝子板ノ

上ニ直徑約二寸三分ニ延展シ中央ニ於テ厚サ約四分五厘ノ饅頭形鉢二個ヲ作り約二十四時間ヲ

經テ水中ニ浸シ二十七日間ヲ經テ歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルヲ要ス

又前法ニ依ル檢定時間ヲ猶豫シ得サル場合ハ前項ニ依ルト同様ノ饅頭形鉢ヲ少クトモ二十四時

間ヲ經テ適宜鍋中ニ靜置シ更ニ水ヲ注加シタル後徐ロニ熱シ水ノ沸騰ヲ約一時三十分間保續セ

シメ漸次冷却シタル後歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルモノタルコトヲ要ス

四七、混凝土ハ「セメント」及砂ヲ精確ニ量リ乾燥ノ儘四回以上更ニ砂利ヲ入レ四回以上混合シタ

ル後水ヲ注キ五回以上切り合セ充分混合シタル後所定ノ場所ニ入レ厚五寸毎ニ敷均シ充分ニ搗

固ムヘシ

四八、泥凝土ヲ入レ込ムニハ地盤ヲ搗キ固メル後指定數量ノ砂利ヲ敷キ充分搗キ固メ周圍ニ遣形板枠ヲ設 混凝土ヲ入レ込ミ始端ヲ以テ平等ニ搗キ固メ表面ニ水ノ滲出スルヲ以テ適度トシ直ニ掛越ヲナシ置キ特別ノ場合ヲ除キ一週間ヲ經過セザレハ堰枠ヲ除却シテ其ノ上部ヘ工事ヲ施スヘカラス

四九、「モルター」練ハ砂利ヲ混入セサルノ外總テ混凝土ノ仕様ニ準スルモノトス

五〇、「セメント」ヲ使用セムトスルトキハ壹時間以上空氣ニ乾燥シ使用スヘシ

五一、「モルター」ハ水ノ量多キニ過キ流動狀トナラサル様注意シ又使用中ハ瞬時モ間斷ナク攪交スヘシ但シ二時間以上ヲ經過シタル「モルター」ハ使用スヘカラス故ニ多量ヲ一時ニ製スヘカラ

五二、粗角石積ハ指定ノ材料ヲ用キ石ノ裏面ハ表面ニ對スル十分ノ八以内ノモノヲ使用スヘカラス 縦目接合ノ傾ハ六十度ヲ超ヘシメス又芋繼ニナスヲ禁ス角石ハ各層毎ニ遣リ違ヒニ築造シ接合ハ玄翁削ト爲シ良ク摺リ合セ可成石ノ全面ヲ密着セシムヘシ如何ナル場合ニ於テモ其ノ接合ノ長五寸ヲ下ルヲ許サス

練積工ニ使用スル石材ハ全面ニ水ヲ注キ瞬時モ乾カサル様ニ注意シ各處空隙ナキ様石表面ヨリ扣末ニ至ルマテ充分填充シ合端ハ指定ノ通り丁寧ニ目塗ヲ爲スヘシ

五三、石積工ニ在リテハ既設ノ石ニ玄翁ヲ用ウヘカラス又積上中既設ノ目地ヲ損シタルトキハ幾層タリトモ改築ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ充分「モルター」ヲ去リ石ヲ清潔ニ爲シタル後積ミ直スヘシ

五四、野面石練積ノ場合モ割石ニ準スルモノトス

五五、煉瓦ハ其ノ切斷面ニ於テ分子緻密ニシテ小石又ハ過度ノ砂ヲ含マス割目、燒割、氣孔其ノ他強力耐力ニ有害ナル微候ヲ呈セス稜角ノ正シキモノニシテ覺個ノ重量七百二十匁以上吸水量ハ自重ノ十分ノ一以下タルヘシ

五六、煉瓦疊積方法ハ英疊式トシ目地ハ約一分トシ各層ノ面ハ壓力ノ方角ニ直角ナラシメ一局部ノ急速ニ積ムヘカラス各層平均ニ積上ケ其ノ高ハ一日付ニ五尺ヲ限度トス

五七、煉瓦ハ泡ノ出止マル迄水ニ浸シ蘆芥ヲ去リタル後使用スヘシ其ノ積上ノ際ハ充分「モルター」ヲ附着シ手ヲ以テ壓ヘ付ケ上部ニ「モルター」ヲ溢レシムル位ヲ程度トスヘシ又不得止場合ヲ除ク外流シ「モルター」ノ使用ヲ禁ス

五八、目塗ハ總テ積上タル「モルター」ヲ深四分掘取タル後施行シ煉瓦ノ形不同ナルモノアルトキハ目切ヲナシ目塗乾燥ノ後清潔ニ洗滌スヘシ

五九、粘土ハ粘力ヲ有シ握リ固メタル上水中ニ投シ溶解セサルモノタルヲ要ス最良ノ粘土ヲ得難キ場合ハ石灰一、眞砂^{シリカ}土三ノ混合土ヲ代用スルモ妨ナシ

六〇、土管ハ分子緻密ナル割目等ナキ本焼ノモノニシテ地盤ヲ充分搗固メタル後指示ノ通粘土卷トシ排水上支障ナキ樣敷設スヘシ

六一、砂利ハ其ノ質堅硬ナルモノニシテ蘆芥等ヲ混入セス左記五種ノ内指定ノモノヲ樹量檢收スルモノトス但シ切込砂利ハ樹量檢收ヲ容スルコトアルヘシ

第一種徑六分以下三分以上 第二種徑八分以下四分以上 第三種徑一寸以下四分以上 第四種徑一寸二分以下砂抜キノモノ 第五種切込砂利(徑一寸二分以上ノ礫及砂十分四以上ヲ

混合セザルモノニ限ル

六二、路面上置具土ハ徑一寸五分以上ノ礫及砂十分ノ三以上ヲ混合セザルモノニシテ特ニ示スモノ、外樹量檢收スルモノトス

六三、鋼土ハ指定ノ通根入ヲレ幅厚共間隙ナク充分ニ練リ上ケ打堅ムヘシ但シ鋼土ハ山或ハ田畑等採取箇所ヲ限定セスト雖粘力不充分ニシテ他物ヲ混淆シタルモノ又ハ砂三分ノ一以上ヲ含有セルモノ若ハ全ク砂質ヲ含マサルモノハ使用ヲ許サズ

六四、粗朶ハ其ノ樹種檜、楓、櫻、黒文字木、其ノ他ノ雜木(針葉樹ヲ除ク)元口徑五分乃至一寸五分長拾尺以上ノモノニシテ根元ヨリ一尺五寸上ニテ廻リ二尺五寸以上、五尺上ニテ廻リ二尺以上トス但シ全量ノ内長拾尺通ノモノハ十分ノ六以上トシ殘余ハ五尺以上ノ繼粗朶ヲ許スモノトス

六五、帶梢ハ其ノ樹種粗朶全樣總テ堅固ニシテ粘質ノモノヲ撰ミ悉ク小枝ヲ拂ヒ去リ元口徑八分内外長十二尺以上貳拾五本ヲ合セ壹束トス

六六、杭木ハ其ノ樹種檜、楓、樺、栗、櫻等(檜、杉等ヲ除ク)凡テ粘質ノモノヲ撰ヒ眞直ニシテ長四尺元口徑一寸二分乃至一寸四分迄トシ末口ハ約壹寸ノモノニシテ其ノ末口ヲ三角ニ尖シ拾本ヲ壹束トス

六七、藁三子繩ハ眞質ノ藁ヲ長ク叩キ三子ニ合セタル藁繩ニシテ一條ノ長拾尺其ノ一端ニハ三子ニ合セタル蛇口形ノ輪ヲ作り繩ノ太サハ輪ノ處ニテ徑八分トシ長拾尺ノ處ニテ徑六分トシ其ノ捻力硬固ナルモノトス

六八、藁三子繩ハ良質ノ藁ヲ長ク叩キ三子ニ合セタル藁ニシテ徑四分長白尺ヲ以テ壹房トス

六九 沈床工ニ使用スル連柴(ウイープ)ハ其ノ用ウヘキ場所ニ依リ長短同シカラサレハ先ツ之レヲ製スルニ當リテ其ノ用ウヘキ丈ノ長サヲ定メ而シテ束粗朶ヲ解キ其ノ中ヨリ最モ長ク且ツ直ニシテ細枝ノ多キモノヲ撰出シ其ノ梢ヲ必ス一方ニ向テ根梢ヲ相接續セシメ内徑五寸ノ締金ヲ以テ堅ク結束シ壹尺貳寸毎ニ十四番鐵線ヲ用ヰ其ノ鐵線ト一ツ置キニ二子繩ヲ以テ二ダ廻リ緊束シ其ノ長數十尺ニ涉ルモ皆之ニ準シテ製スヘシ

七〇 沈床工ハ連柴ヲ縱横三尺間ニ配置シ(枝先ヲ河心及下流ニ向ク)外圍ニタ通ハ交叉ノ箇所毎ニ其ノ他ハ三尺格一ツ置キニ三子繩ヲ以テ緊束シ以テ下段柴格ヲ作り下段柴格ノ上ニハ數粗朶ヲ縱横三層(平壹坪ニ本束十三束ノ割)ニ敷キ其ノ上ニ前ニ示ス下段ノ柴格ト全シク連柴ヲ縱横ニ配置シ上段ノ柴格ト爲シ以テ下段ニ縛リタル三子繩ヲ延シ上下兩段ヲ緊結ス而シテ周圍ノ二行ハ一間ニ送り五本ノ杭不ヲ貫樹シ其ノ内部ハ縱横共ニ一行越シニ同シク一間ニ送り五本ノ杭木ヲ打透シ帶稍ヲ以テ編縮ヲ施シ沈床ノ厚サ約三尺トシ砂ヲ粗朶ノ間隙ニ砂利ヲ目潰ニ用ヰ重量拾五貫目ノ割石又ハ野面石ノ葺石或ハ拾石ヲ施シ指示ノ箇處ニハ留杭又ハ抱杭工ヲ施スモノトス

右

明治四十四年 月 日

和歌山縣

○ 辭 令

○ 明治四十四年八月十九日

警部 竹田貞之丞

(各通)

畜牛結核病検査ヲ命ス
檢疫委員ヲ命ス

(各通)

檢疫委員ヲ命ス
任和歌山縣西牟婁郡技手
給月俸壹圓

○明治四十四年八月二十一日
和歌山縣立農林學校教諭ニ任ス
七級俸ヲ給ス

警部	土屋留吉
警部	三宅清次郎
警部補	橋本良助
警部補	野村 颯
警部補	北脇富太郎
警部補	早川 勝藏
警部補	神樂重兵衛
警部補	中山 隆

西牟婁郡書記	谷輪重太郎
西牟婁郡書記	岩橋道隆
巡查	保田政一

勳七等 小山菊次郎

宇野健吉

和歌山縣立和歌山高等女學校教諭ニ任ス

栃木縣宇都宮市立女子技藝學校教諭

木村 寸 彥

九級俸ヲ給ス

○明治四十四年八月二十二日

和歌山市立和歌山商業學校教諭心得ヲ命ス

渡邊 萬壽雄

月俸參拾五圓ヲ給ス

○明治四十四年八月二十三日

農事試驗場種藝部主任ヲ命ス

農事試驗場技手

西 清 藏

和歌山縣立農事試驗場技手ニ任ス

平野 英 一

月俸五拾五圓ヲ給ス

病蟲害驅除豫防督勵員ヲ命ス

那賀郡技手

萬谷 佐太郎

病蟲害驅除豫防督勵員ヲ免ス

那賀郡技手

金谷 仲 次

○明治四十四年八月二十四日

九級俸ヲ給ス

日高郡立日高第一實業學校教諭

杉田 茂右衛門

第一工區出張所務勤ヲ命ス

土木技手

戸 臺 龜 助

○明治四十四年八月二十六日

(各 通)

警察事務練習ノ爲上京ヲ命ス

警部補

貴志 得彌 太

警部

宇田 嘉 市

岩出警察分署長警部 森 一 惠

粉河警察分署長宇田嘉市警察事務練習ノ爲上京不在中粉河分署長兼務ヲ命ス

○正誤 本月十八日第一〇九九號許令欄中金津鹿之助ノ東牟婁郡新宮町立高等女學校教諭兼校長トアルハ校長兼教諭ノ誤

○町村吏員ノ異動

○明治四十四年八月二十二日認可

西牟婁郡岩田村助役 稻垣源藏

○明治四十四年八月二十四日認可

那賀郡村宿村長 笹井文吾

○彙報

○死亡 西牟婁郡書記堀千代吉ハ本月二十二日死亡セリ

○轉任 粉河中學校教諭西村芳藏ハ本月二十二日廣島縣立福山中學校教諭ニ轉任セリ

○改姓 海草郡書記田和靖夫ハ今般鐵初ト改姓セリ

○正誤

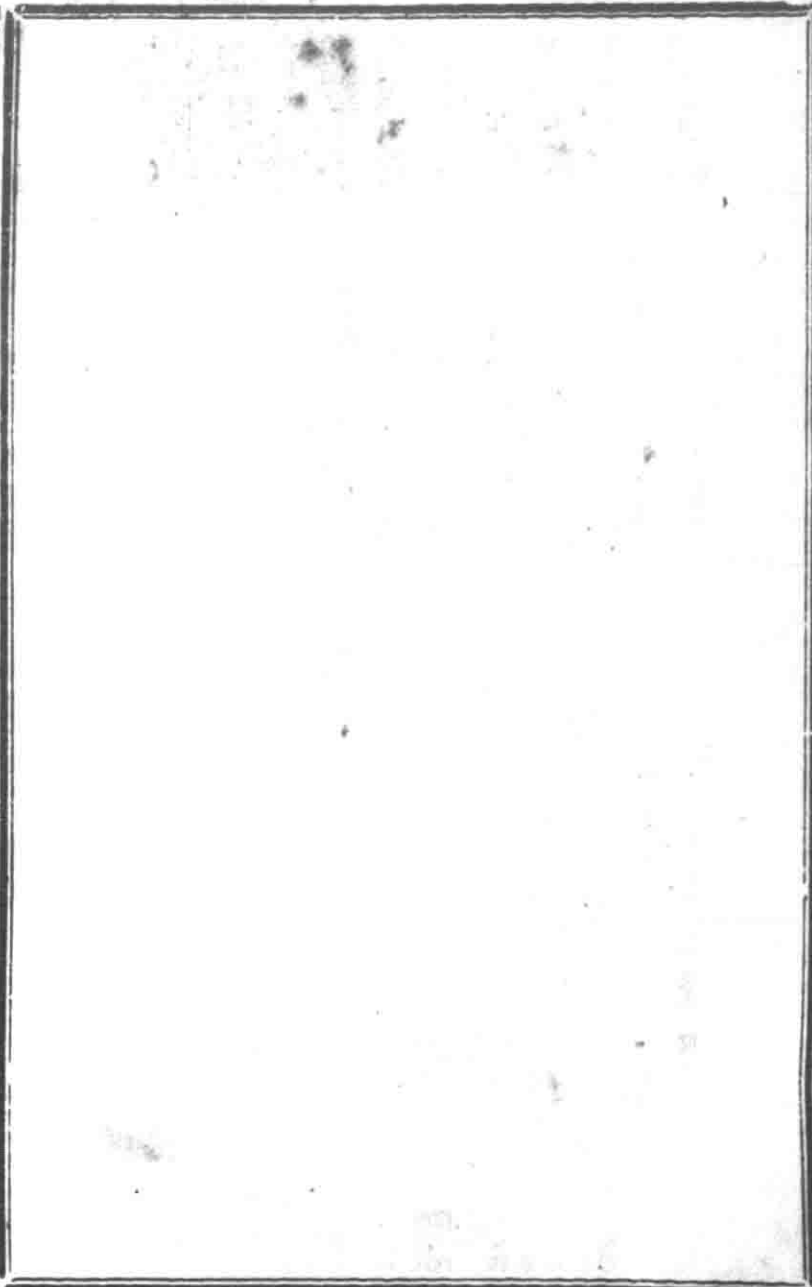
明治四十四年八月二十一日縣報第千百號告示第二百八十五號度量衡器第一種取締檢査執行口時場所中全五日ノ下ニ「西ノ店、橋丁ノ次ニ全六日」ハ五日ノ次ニ登載ノ誤植及全十八日中ニ「町奉行丁一丁目」ハ「町奉行丁一、二丁目」ノ誤

○觀象

自八月十九日至七月廿四日氣象

(和歌山測候所觀測)

種目	八月十九日	八月二十日	八月廿一日	八月廿二日	八月廿三日	八月廿四日
平均氣壓 前年 七五八 本年 七五五	七五八 七五五	七五七 七五三	七五七 七五五	七五六 七五五	七五五 七五六	七五七 七五六
平均氣溫 前年 二四度七 本年 二五度七	二四度七 二五度七	二五度〇 二六度九	二四度八 二六度四	二五度七 二六度四	二七度一 二八度一	二八度〇 二九度二
最高氣溫 前年 三〇度九 本年 二九度五	三〇度九 二九度五	三一度八 三一度八	三〇度八 三〇度八	三一度七 三一度七	三一度四 三一度四	三一度四 三一度四
最低氣溫 前年 二〇度九 本年 二二度一	二〇度九 二二度一	一九度六 二二度六	一九度一 二二度九	二〇度八 二二度八	二二度三 二二度六	二二度九 二六度八
最多風向 前年 北 本年 北	北 北	北 北	北 北	南々 南々	南々 南々	南々 南々
平均風力 前年 二米九 本年 二米〇	二米九 二米〇	二米七 三米二	一米四 一米四	二米二 二米二	四米四 四米四	八米一 八米一
天 前年 晴 本年 晴	晴 晴	晴 晴	晴 晴	晴 晴	晴 晴	晴 晴
降水量 前年 〇 本年 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇
記事現象 前年 夜間北西ニ電光 本年 夜間北西ニ電光	夜間北西ニ電光 夜間北西ニ電光	午後二時過微雨ス 夜間北々西ニ電光	夜間北々西ニ電光 夜間北々西ニ電光	夜間北々西ニ電光 夜間北々西ニ電光	夜間北々西ニ電光 夜間北々西ニ電光	黃昏微雨シ四方ニ電光發ス



明治四十四年八月二十六日印刷
明治四十四年八月二十七日發行
(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日發行)

和歌山縣知事官房

和歌山市北休賀町六番地
印刷所 和歌山市北休賀町六番地
活版

七部

明治四十四年八月二十七日告示第二百九十四號

和歌山縣土木工事仕様書

和歌山縣土木工事仕様書

- 一、縣費ヲ以テ支辨スル土木工事ハ本仕様書ニ依リ施行スヘシ但シ特ニ示シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二、請負人ハ當廳ヨリ交付ノ材料認定簿ヲ常ニ工場ニ備置キ検査済ノ物品員數ヲ之ニ記載シ監督員ノ認印ヲ受ケ工事竣工検査完了ノ上返納スヘシ
- 三、工事用材料ノ品質及寸法ノ検査ハ係員ニ於テ至當ト認ムル方法ニ依リ検査ヲ行フモノトス其ノ方法ニ付請負人ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 四、工事用材料ハ現場工事ニ着手前材料全部ノ五分ノ一以上(施行上最初ニ必用ナル種類)ヲ取揃ヘ置クヘシ殘部五分ノ四ニ對スル材料ハ指示ノ期間毎ニ納付スヘキモノトス
- 五、土取場、土捨場等ニ關スル諸般工事用諸器械、遺形、足場、監督員出張小屋、材料集置場、工業船、土砂船、點燈、爲替道、仮水路設置、水替ヘ、材料検査用諸費及施工上測量ヲ要スルトキノ杭木人夫其ノ他雜費ハ凡テ請負人ノ負担トス
- 六、土砂又ハ岩石等ハ工作物又ハ營造物ヘ危害ヲ及ホシ若ハ公害ノ虞アル場所ヨリ採取スヘカラス
- 七、土砂又ハ岩石等ハ河川其ノ他公害ノ虞アル場所ニ捨ツヘカラス
- 八、工事完成ノ上ハ五日以内ニ跡片付掃除ヲ爲スヘシ
- 九、設計書及圖面ニ記載ノ寸法ハ凡テ仕上正寸トス
- 一〇、計畫ノ中心、勾配、幅員等ハ凡テ圖面ニ表示ノ通施行スヘシ

一一、傾斜ノ地ニ盛土ヲ爲サントスルトキハ現場監督員ノ指示ニ從ヒ斜面ニ階段ヲ附シ新舊土砂ヲ密着セシムヘシ

一二、盛土傾斜面ハ厚六寸以上真土ヲ用ヒ(二分ノ一以内ノ砂ヲ混スルモ支ナレ)法高壹尺毎ニ長壹尺幅四寸厚壹寸以

上ノ雜草ヲ混セサル筋芝ヲ法面直角ニ植込ニ充分搗固メ羽龜ニテ土羽面ヲ堅ク叩キ固メ一直線ニ法勾配通り良ク狂ナキヲ期スヘシ而シテ以上ノ工費ハ凡テ盛土單價ニ含有ス尤モ土羽工ハ別ニ工費ノ支拂ヲ爲スコトアルヘシ但シ振ヒ芝、乾芝又ハ萌芽ノ見込ナキモノヲ用ウルヲ許サス又筋芝ヲ付スルハ盛土後可成一兩度ノ降雨ヲ經テ植付クヘシ

一三、盛土ノ内部ハ設計書ニ指定スル場合ノ外、砂或ハ砂利等ヲ混スルハ適宜タルヘシト雖草木其他ノ雜物ヲ混清スヘカラス

一四、盛土ハ壹尺乃至貳尺毎ニ持込ニ人夫ヲシテ踏固メシムヘシ撤出シノ盛土ハ層一層左右兩端ニ高ク凹形ニ撤出シ土質ニ依リ高サノ十分ノ一乃至二十分ノ一ニ對スル餘盛ヲ爲スヘシ但シ盛立後沈下ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

一五、橋臺土留石垣、暗渠土管ノ後部又ハ上部ハ偏壓ナキ様特ニ入念築立ヲ爲スヘシ

一六、切取ノ斜面ハ指定シタル勾配ニ切均シ凹凸ナカラシムヘシ實況ニ應シ既定ノ勾配ニテ保持シ難シト認メタル箇所ハ緩勾配ニ切取ヲナシ若シ之ニ反シ豫想外堅固ナル地質ニシテ保持上支障ナシト認メタル部分ハ既定ノ勾配迄切取ヲシメサルコトアルヘシ尤モ之カ爲メ豫定數量並單價ノ増減ヲ爲ササルモノトス但シ切取敷及上部ノ排水路又ハ土縁ノ築設ハ切取單價ニ含有ス

一七、切取又ハ盛土法面ニ於ケル張芝ハ壹枚ノ大サ五十平方寸厚壹寸以上ニシテ雜草ヲ混セサルモノトス張芝目申ハ長サ六寸幅四分以上ノモノニシテ平壹坪ニ百本以上トス

一八、挽材ハ可成乾燥シタルモノニシテ死節、生節ノ大ニシテ使用ノ妨トナルモノ又ハ立枯レ水腐リ捻レ歪ミ等保存耐力上缺點アルモノハ使用スヘカラス但シ高欄ノ木材ハ疵疵ハ勿論生節タリトモ可成少ナキモノヲ使用スヘシ敷板其ノ他ノ正角材ト雖一面四寸以上ノモノニアリテハ其ノ斷面積百分ノ一以內長三尺未滿ノ丸身ニシテ表ニ顯レサルモノニ限り監督員ニ於テ認定セシモノハ之ヲ使用セシムルコトアルヘシ

一九、丸太ノ類ト雖彎曲ナキヲ要ス但シ其ノ曲ノ心墨ヲ外レスシテ施行上支ナシト認メタルモノハ使用ヲ許スコトアルヘシ

二〇、押角材ハ材片ノ一隅ニ於テ幅、厚二邊ノ和ノ六分ノ一以上ノ丸形ヲ帶ヒタルモノハ採用セズ

二一、丸太材ハ基礎用材ヲ除キ可成乾燥シ凡テ外皮ヲ剝キタルモノトシテ末口ノ寸法ハ何レモ皮剝キニシテ斷面節切リトナシタルモノハ其ノ節ヲ離レタル部分ニ於テ長ニ直角ナル平面ニ於テ計ルヘキモノトス但シ斷面橢圓形ナルモノハ長短二徑ヲ平均シタル寸法ヲ以テ測定ス

二二、敷板ハ最小幅四寸以上トシ如何ナル場合ト雖兩端幅ノ差一倍半以上ノモノヲ用ウヘカラス且張合セノ際ハ木心ヲ上部ニ向ケ接際ハ二回以上鋸摺ニシテ「シヤツキ」ノ類ヲ以テ隙間ナキ様締合セ若シ桁木ノ丸太材ニシテ面凹凸アルモノハ均シ木ヲ用ウヘシ但シ均シ木代ハ桁木價格ニ含有ス

二三、橋梁其ノ他木材ノ角物仕立ハ高欄廻リ及「トラス」用材チ上鉋削リトシ其ノ他チ表裏トモ並鉋削トス

二四、出納竝ニ孔ハ（二寸乃至四寸角トシ長サハ厚ノ約二分ノ一）正確ニ仕上ケ組合セハ胴付ニ隙間ナキ様仕上クヘシ

二五、金物ハ鍍疵、鑄疵、地鐵不良又ハ錆落シセサルモノヲ用ウヘカラス而シテ錆止メハ可成現場ニ於テ材料ノ検査ヲ受ケタル上施行スヘシ

二六、「ホールト」其ノ他金物ハ別ニ定ムル寸法重量ニ仕立タルモノトシ「ホールト」ハ締付ニ當リ長短ヲ生シタル際ハ長キハ餘ヲ切り増シ短キハ適當品ニ取替ウヘシ但シ之カ爲メ價格ノ増減ヲ爲ササルモノトス

二七、木材ニ防腐劑ヲ塗抹スル場合ハ三度塗トシ各片ノ接合部ハ接際内部ニ充分塗料ヲ施ス様注意施行スヘシ「カルボニユームアトラス」ヲ塗抹スルニハ鍋類(陶製又ハ鐵製)ニ入レ軟火コテ殆ント手ヲ觸ルヘカラサル程度ニ温メ木理ニ浸潤セシムヘシ木材濕氣ヲ帯ヒシ際ハ沸騰セシメ用ウヘシ横截面、鑿孔其ノ他見ヘ隠レトナル部分ニハ必ス組立前ニ刷毛ヲ以テ充分浸込マシムヘシ

二八、橋梁ノ名稱及河川名竝架換年月ハ男柱ニ彫刻シ文字面ハ鑄チ付シ「メンキ」ヲ塗ルヘシ但シ橋梁名稱ハ両詰共右側男柱ノ中央ニ河川名ハ片詰左側男柱ニ記入シ架橋年月ハ他ノ片詰左側男柱ノ中央ニ記入シ男柱ナキ橋梁ニ於テハ厚六分長二尺幅七寸ノ杉板ノ上部ニ河川名中部ニ橋梁名下部ニ架橋ノ年月ヲ墨書シ見ヘ易キ部分ノ耳桁木中央ニ打付クヘシ但シ之ニ要スル費用ハ仕立費中ニ含有ス

二九、橋梁男柱頭部ハ高サ一邊ノ十分ノ一ナル四方山形ノ鑄チ付シ高欄笠木ハ幅ノ十分ノ一ニ對スル山形ノ鑄チ付シ繼手ハ指示ノ通りトシ仕立上ケハ橋面反リト竝行シ一直線タルヘシ

三〇、榎木ノ仕立ハ笠木ヘ二寸以上納入トシテ堅木ニテ栓留トス其ノ足元ハ厚二寸以上トシ耳桁ニ釘留ト爲スヘシ

三一、橋柱ハ元口ヲ根入トシ眞直ニ打込ムモノトス

三二、基礎土居木又ハ梓類ノ柄ノ幅厚ハ其ノ材片ノ末口徑ニ約相當スル長サヲ幅トシ厚ハ幅ノ約三分ノ一トシ柄孔等荒鑿仕上トシ普通通ノ場合ハ木口ヨリ其ノ徑ニ相當スル距離ヲ保クシメ柄孔ヲ設ケ柄ト柄孔トハ密着セシメ堅木区栓留ト爲スヘシ

三三、基礎用材ハ生松又ハ檜丸太ニシテ素性正シク心墨ノ外レナルモノニシテ末口四寸未滿ノ尊木ハ相當重量アル蝟木其ノ他適當ナル杭打器械ヲ使用シテ打込テナシ末口四寸以上ノ杭木ハ總テ指定ノ重量ヲ有スル眞矢又ハ二本子其ノ他適當ナル器械(但シ末口八寸未滿ハ重量三十貫以下全八寸以上十貫以下ノモノ)ヲ使用シテ打込テナスヘシ若シ破碎ノ虞アルモノハ請負人自費ヲ以テ鐵輪ヲ箆メ其ノ破碎ヲ防キ設計ノ通打込ムヘキモノトス又杭木尖シ長ハ末口徑ノ一倍半ヲ以テ通例トシ砂利質ノ箇所ニ打込ムヘキ杭ハ必ス其ノ尖端ヲ圓錐形トシ其ノ他ハ三角形若ハ方錐形ト爲スヘシ但シ地質ニ依リ設計ノ通打込ミ難クシテ最終沈下ノ程度ヲ以テ杭根入ヲ定ムトスルトキハ監督員ノ認定スル程度ニ依ル又打込方ニ着手セシ杭木ハ必ス即日打込ミ終ル可ク翌日ニ跨リ施行スルヲ許サス

三四、抱杭ノ類ハ基礎上部ニ疊積工ヲ施行セサル以前ニ於テ打込ヲ爲スヘシ但シ杭頭ハ土居木上端ヨリ五寸以下ニ達スル迄打込ムヘキモノトス

三五、捨石ハ割石野面石タルチ間ハス一立方尺ノ重サ拾五貫以上ニシテ著シク扁平ナラス捨込後折損ノ憂ナキモノニシテ壹個ノ最輕量目參拾貫以上ノモノニシテ貳千七百貫目ヲ以テ立壹坪トシ個數ニテ計量ス仮令ハ壹個參拾貫ノ指定ナレハ九拾個ヲ以テ立壹坪トシ參拾貫ヨリ量目大ナルモノト雖參拾貫ト看做シ個數ヲ以テ計算ス尤モ其ノ量目三割以上増加シアルモノハ壹個三分

トレ以上三割チ増ス毎ニ三分チ増加スルモノトシテ計算スルカ如レ

三六、石垣ハ設計書ノ通裏詰石ヲ入ル、ニ充分餘地アル迄土砂ヲ掘取リ指定ノ基礎工チ施シ又ハ
岩石掘取ヲ爲シ監督員ノ檢査ヲ受ケタル後積立ニ着手スヘシ根堀跡ハ埋戻シテ必要トスル部分
ニ對シ指定ノ通無償ニテ施行スヘシ

三七、割石垣ハ甲、乙ノ二種トシ疊法ハ布積、谷積ノ二法トス但シ設計書ニ特ニ記載スルモノ、外
總テ谷積トス

三八、甲種割石垣ハ合端玄翁小叩摺合積ニシテ周邊總テ密接セシムルヲ要シ如何ナル場合ト雖表
面一邊ノ二分ノ一以上ニ相當スル部分ハ其ノ合端ノ入り少クトモ石扣ノ十五分ノ一チ有セシメ
八ツ卷、四ツ目、崩レ、込石、サカ石、芋繼及四個以上ノ通目ヲ生セシメサル様築石ノ配置宜シキ
ヲ得ルヲ要シ(築石ハ長サノ三分ノ一チ厚サノ最小トシ長ノ三分ノ二チ幅ノ適度トス厚幅同一
ノモノニアリテハ長ノ二分ノ一チ標準トス)割栗石又ハ割肌石ヲ用ヒ丁寧ニ隙間ナク肌石、尻飼
テ入レ定着セシメ裏込石(裏込礫)ハ其ノ詰方緻密ニシテ亂雜ナラサルヘク徑二寸以上六寸以下
ニシテ二個相擊チ破碎セサル材料ヲ以テ所定ノ厚サニ填充シ内部ノ土砂ハ裏込ニ混入スヘカ
ス但シ肌石、尻飼、目潰砂利ノ代價ハ築石價格中ニ含有スルモノトス

三九、乙種割石垣ハ合端玄翁摺合積ニシテ如何ナル場合ト雖表面一邊ノ三分ノ一以上ニ相當スル
部分ハ其ノ合端ノ入り少クトモ石扣ノ二十分ノ一チ有セシムルヲ要ス尤モ石質ニ依リ胴付合端
タルモ差支ナシト雖止ムチ得ス合端ノ空隙ヲ生スル場合ハ可成小ナル三角形トシ必ス石裏ヨリ
恰當ナル石ヲ填充シ決シテ外部ヨリ込石チナスヘカラス而シテ築石ノ配置竝肌石、尻飼、裏込石
ノ入レ方ハ甲種割石積ト全一ノ仕様ニ依ルモノトス但シ片岩割石ニ限り其ノ石質ノ硬軟ニ應シ

合端ノ入りハ甲乙二種トモ前記ノ十分ノ五迄縮小シ又標準形狀ニ於テ幅ノ大キ石扣ヲ超過セザルモノハ使用スルコトヲ得

四〇、野面石ノ疊法ハ合端摺合ヲ要セス顯頭石(午房形)ヲ龜甲ニ組合ハセ壹個若ハ貳個ノ積石脱出スルモ拱持ノ作用ニ依リ他ノ部分ノ崩壞ヲ來ダザル様注意積立ヲ要ス其ノ他ノ事項ハ割石垣ニ準據スルモノトス

四一、石垣ノ築立ハ通例勾配ニ直角ト爲シ築石ノ後部ニテ下ルヲ要シ根石ハ基礎工ノ前段ヨリ外部ニ突出セシメヌ平等ニ掘付ケ天石ハ合端ノ長キモノヲ要スルヲ以テ築石中ニテ最大、最良ノモノヲ撰用スヘシ

四二、石垣築造ハ遣方通り見通シ正シク築立テテ爲シ孕ミ出シ等ナカラシメ設計ノ勾配ニ符合セシムヘシ但シ勾配ハ舊形ニ接續ノ箇所ニ限り監督員ノ指示ニ從ヒ取合セ長ク接續セシムヘシ

四三、石材ハ石質軟弱、疊積後折損又ハ風化ノ虞(富田石ヲ除キ)アルモノ竝石取ノ粗雜ニ過キ甚シキ錐形ノモノハ採用セス

四四、野面石及裏込石等ハ其ノ採集地ノ何レタルヲ問ハスト雖堅固ニシテ二個相擊チ破碎セザルモノタルヲ要ス

四五、石垣築石ノ內在石ヲ利用スル場合ニ於テハ足シ石ト混淆使用セス各別ニ疊積スルヲ要ス

四六、混凝土ハ洗砂利、洗砂及「セメント」ノ配合ヨリ成立シ砂及砂利ハ多角ニシテ且ツ堅硬ナルヘク砂ハ清淨ニシテ粘土其ノ他有機物ヲ除却シタル徑四厘以下二厘以上ノモノタルヘク而シテ其ノ少量ヲ指頭ニ撮ミテ之ヲ揉ミ指頭ニ鋭ク粗糙ニ感スルモノタルヲ要ス又砂利ハ徑五分以下一寸五分以下ノモノタルヘク「セメント」ハ聊カモ濕氣凝結等ノ異狀ナク完全ナル粉末ノ狀態

ニシテ「セメント」二十七匁ニ適量ノ水(七匁乃至九匁)ヲ加ヘ能ク混捏シテ糊狀体ト爲シテ之ヲ硝子板ノ上ニ直徑約二寸三分ニ延展シ中央ニ於テ厚サ約四分五厘ノ饅頭形鉢二個ヲ作り約二十四時間ヲ經テ水中ニ浸シ二十七日間ヲ經テ歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルヲ要ス

又前法ニ依ル檢定時間ヲ猶豫シ得サル場合ハ前項ニ依ルト同様ノ饅頭形鉢ヲ少クトモ二十四時間ヲ經テ適宜鍋中ニ靜置シ更ニ水ヲ注加シタル後徐ロニ熱シ水ノ沸騰ヲ約一時三十分間保續セシメ漸次冷却シタル後歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルモノタルコトヲ要ス

四七、混凝土ハ「セメント」及砂ヲ精確ニ量リ乾燥ノ儘四回以上更ニ砂利ヲ入レ四回以上混合シタル後水ヲ注キ五回以上切り合セ充分混合シタル後所定ノ場所ニ入レ厚五寸毎ニ數均シ充分ニ攪固ムヘシ

四八、混凝土ヲ入レ込ムニハ地盤ヲ搗キ固メタル後指定數量ノ砂利ヲ敷キ充分搗キ固メ周圍ニ遣形板枠ヲ設テ混凝土ヲ入レ込ミ峭槌ヲ以テ平等ニ搗キ固メ表面ニ水ノ滲出スルヲ以テ適度トシ直ニ掛籠ヲナシ置キ特別ノ場合ヲ除キ一週間ヲ經過セサレハ堰枠ヲ除却シテ其ノ上部ヘ工事ヲ施スヘカラス

四九、「モルター」練ハ砂利ヲ混入セサルノ外總テ混凝土ノ仕様ニ準スルモノトス

五〇、「セメント」ヲ使用セムトスルトキハ壹時間以上空氣ニ乾燥シ使用スヘシ

五一、「モルター」ハ水ノ量多キニ過キ流動躰トナラサル様注意シ又使用中ハ瞬間モ間斷ナク攪交スヘシ但シ二時間以上ヲ經過シタル「モルター」ハ使用スヘカラス故ニ多量ヲ一時ニ製スヘカラス

五二、粗角石積ハ指定ノ材料ヲ用キ石ノ裏面ハ表面ニ對スル十分ノ八以内ノモノヲ使用スヘカラス

縦目接合ノ傾ハ六十度ヲ超ヘシメヌ又芋繼ニナスヲ禁ス角石ハ各層毎ニ違リ違ヒニ築造シ接合ハ玄翁削ト爲シ良ク摺リ合セ可成石ノ全面ヲ密着セシムヘシ如何ナル場合ニ於テモ其ノ接合ノ長五寸ヲ下ルヲ許サス

練積工ニ使用スル石材ハ全面ニ水ヲ注キ瞬時モ乾カサル様ニ注意シ各處空隙ナキ様石表面ヨリ扣末ニ至ルマテ充分填充シ合端ハ指定ノ通り丁寧ニ目塗ヲ爲スヘシ

五三、石積工ニ在リテハ既設ノ石ニ玄翁ヲ用ウヘカラス又積上中既設ノ目地ヲ損シタルトキハ幾層タリトモ改築ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ充分「モルター」ヲ去リ石ヲ清潔ニ爲シタル後積ミ直スヘシ

五四、野面石練積ノ場合モ割石ニ準スルモノトス

五五、煉瓦ハ其ノ切斷面ニ於テ分子緻密ニシテ小石又ハ過度ノ砂ヲ含マス割目、燒割、氣孔其ノ他強力耐力ニ有害ナル徴候ヲ呈セス稜角ノ正シキモノコレヲ壹個ノ重量七百二十匁以上吸水量ハ自重ノ十分ノ一以下タルヘシ

五六、煉瓦疊積方法ハ英疊式トシ目地ハ約二分トシ各層ノ面ハ壓力ノ方角ニ直角ナラシメ一局部分ノミ急速ニ積ムヘカラス各層平均ニ積上ケ其ノ高ハ一日付ニ五尺ヲ限度トス

五七、煉瓦ハ泡ノ出止マル迄水ニ浸シ蘆芥ヲ去リタル後使用スヘシ其ノ積上ノ際ハ充分「モルター」ヲ附着シ手ヲ以テ壓ヘ付ケ上部ニ「モルター」ヲ溢レシムル位ヲ程度トスヘシ又不得止場合ヲ除ク外流シ「モルター」ノ使用ヲ禁ス

五八、目塗ハ總テ積上タル「モルター」ヲ深四分掘取タル後施行シ煉瓦ノ形不同ナルモノアルトキハ目切ヲナシ目塗乾燥ノ後清潔ニ洗滌スヘシ

五九、粘土ハ粘力ナ有シ握リ固メタル上水中ニ投シ溶解セサルモノタルヲ要ス最良ノ粘土ヲ得難

キ場合ハ石灰一、真砂土三ノ混合土ヲ代用スルモ妨ナシ

六〇、土管ハ分子緻密ナル割目等ナキ本焼ノモノニシテ地盤ヲ充分搗固メタル後指示ノ通粘土卷トシ排水上支障ナキ様敷設スヘシ

六一、砂利ハ其ノ質堅硬ナルモノニシテ蘆芥等ヲ混入セス左記五種ノ内指定ノモノヲ樹量檢收スルモノトス但シ切込砂利ハ樹量檢收ヲ零スルコトアルヘシ

第一種徑六分以下三分以上 第二種徑八分以下四分以上 第三種徑一寸以下四分以上
第四種徑一寸二分以下砂拔キノモノ 第五種切込砂利(徑一寸二分以上ノ礫及砂十分四以上ヲ

混合セサルモノニ限ル)

六二、路面上置眞土ハ徑一寸五分以上ノ礫及砂十分ノ三以上ヲ混合セサルモノニシテ特ニ示スモノ、外樹量檢收スルモノトス

六三、鋼土ハ指定ノ通根入ヲナシ幅厚共間隙ナク充分ニ練リ上ク打堅ムヘシ但シ鋼土ハ山或ハ田畑等採取箇所ヲ限定セスト雖粘力不充分ニシテ他物ヲ混淆シタルモノ又ハ砂三分ノ一以上ヲ含有セルモノ若ハ全ク砂質ヲ含マサルモノハ使用ヲ許サス

六四、粗朶ハ其ノ樹種檜、楓、櫻、楓、黒文字木、其ノ他ノ雜木(針葉樹ヲ除ク)元口徑五分乃至一寸五分長拾尺以上ノモノニシテ根元ヨリ一尺五寸上ミニテ廻リ二尺五寸以上、五尺上ミニテ廻リ二尺以上トス但シ全量ノ内長拾尺通ノモノハ十分ノ六以上トシ殘余ハ五尺以上ノ繼粗朶ヲ許スモノトス

六五、帶梢ハ其ノ樹種粗朶全様總テ堅固ニシテ粘質ノモノヲ撰ミ悉ク小枝ヲ拂ヒ去リ元口徑八分

内外長十二尺以上貳拾五本ヲ合セ壹束トス

六六、杭木ハ其ノ樹種檜、樅、栗、櫻等(檜、杉等ヲ除ク)凡テ粘質ノモノヲ撰ビ眞直ニシテ長四尺元口徑一寸二分乃至一寸四分迄トシ末口ハ約壹寸ノモノニシテ其ノ末口ヲ三角ニ尖シ拾本ヲ壹束トス

六七、藁三子繩ハ其質ノ藁ヲ長ク叩キ三子ニ合セタル藁繩ニシテ一條ノ長拾尺其ノ一端ニハ三子ニ合セタル蛇口形ノ輪ヲ作り繩ノ太サハ輪ノ處ニテ徑八分トシ長拾尺ノ處ニテ徑六分トシ其ノ捻力硬固ナルモノトス

六八、藁三子繩ハ良質ノ藁ヲ長ク叩キ三子ニ合セタル藁ニシテ徑四分長百尺ヲ以テ壹房トス

六九、沈床工ニ使用スル連柴、ウイープハ其ノ用ウヘキ場所ニ依リ長短同シカラサレハ先ツ之レヲ製スルニ當リテ其ノ用ウヘキ丈ノ長サヲ定メ而シテ束粗朶ヲ解キ其ノ中ヨリ最モ長ク且ツ直ニシテ細枝ノ多キモノヲ撰出シ其ノ梢ヲ必ス一方ニ向テ根梢ヲ相接續セシメ内徑五寸ノ縮金ヲ以テ堅ク結束シ壹尺貳寸毎ニ十四番鐵線ヲ用井其ノ鐵線ト一ツ置キニ三子繩ヲ以テ二タ廻リ緊束シ其ノ長數十尺ニ涉ルモ皆之ニ準シテ製スヘシ

七〇、沈床工ハ連柴ヲ縱横ニ三尺間ニ配置シ(枝先ヲ河心及下流ニ向ク)外圍ニ通ハ交叉ノ箇所毎ニ其ノ他ハ三尺格一ツ置キニ三子繩ヲ以テ緊束シ以テ下段柴格ヲ作り下段柴格ノ上ニハ敷粗朶ヲ縱横三層(平壹坪ニ本束十二束ノ割)ニ敷キ其ノ上ニ前ニ示ス下段ノ柴格ト全シク連柴ヲ縱横ニ配置シ上段ノ柴格ト爲シ以テ下段ニ縛リタル三子繩ヲ延シ上下兩段ヲ緊結ス而シテ周圍ノ二行ハ一間ニ送り五本ノ杭木ヲ貫樹シ其ノ内部ハ縱横共ニ一行越シニ同シク一間ニ送り五本ノ名木ヲ打込ミ帶稍ヲ以テ編織ヲ施シ沈床ノ厚サ約三尺トシ砂ヲ粗朶ノ間隙ニ砂利ヲ目潰ニ用井重

量拾五貫目ノ割石又ハ野面石ノ裏石等ハ捨石ヲ施シ指示ノ箇處ニハ留枕又ハ抛枕工ヲ施スモノ

トス

右

明治四十四年 月 日

和歌山縣